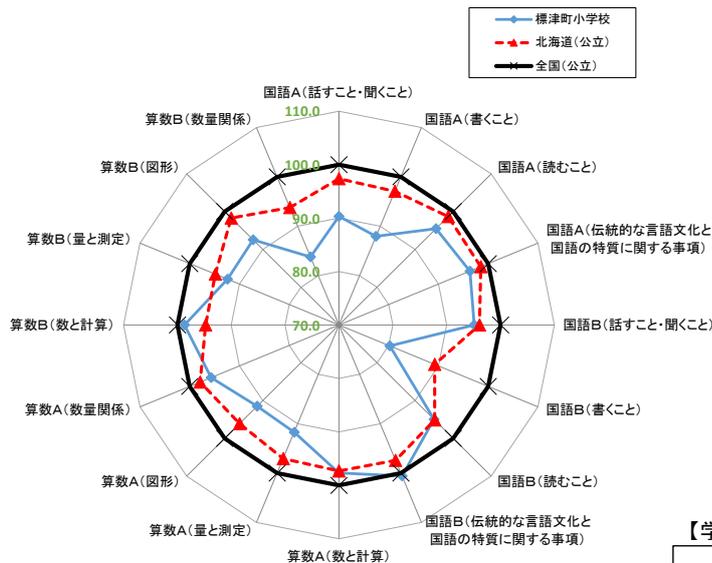


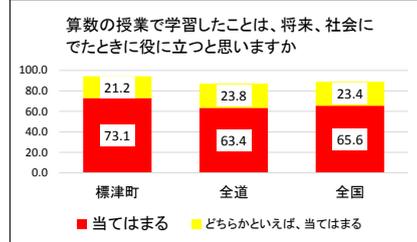
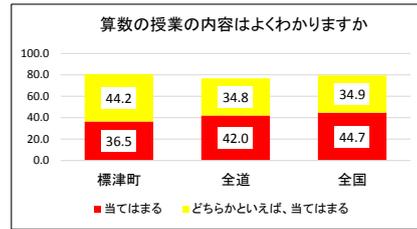
■ 標津町内小学校の状況及び学力向上策 (学校数: 2校、児童数: 52名)

【教科全体の状況】

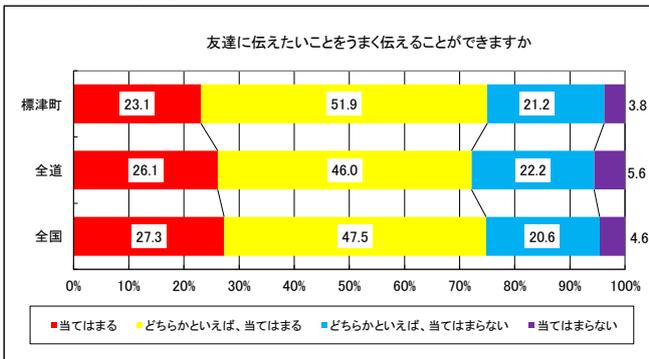
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



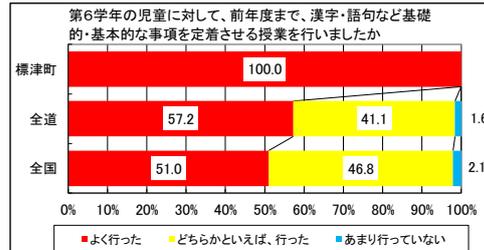
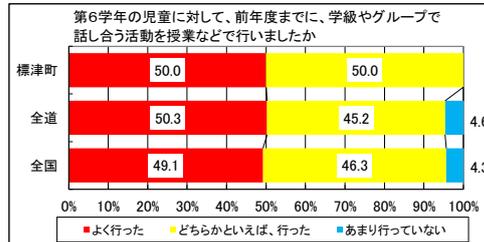
【児童質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語B「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国以上、国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、算数A、Bの「数と計算」が他の領域に比べて全国との差が小さい。	○ 各学校で学級やグループで話し合う活動を充実することなどにより、伝えたいことをうまく伝えることができる児童が増えつつある。また、漢字や語句などを定着させる授業を行うことなどにより、国語A(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)が他の領域に比べて全国との差が小さくなるなど、基礎的な学習内容が定着しつつある。
児童質問紙	○ 「算数の授業の内容がよくわかる、どちらかといえばよくわかる」と回答する児童が全道と比べて多く、「算数の授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役に立つ」と回答する児童が全道、全国と比べて多い。 ○ 「友達に伝えたいことをうまく伝えることができた、どちらかといえばできた」と回答する児童の割合が全道、全国と比べて多い。	
学校質問紙	○ 「学級やグループで話し合う活動を授業で行った」と回答する学校が全国と比べて多い。 ○ 「漢字や語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った」と回答する学校が全道、全国と比べて多い。	

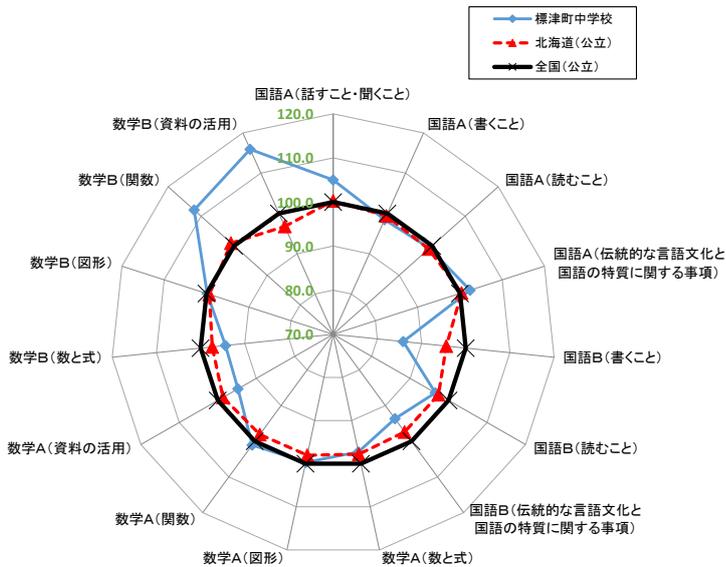
【標津町の学力向上策】

- ◎ 子どもの主体性を培うための学習スタイルに則った授業づくりの推進
- ◎ 習熟度別少人数指導やチームティーチング指導の充実
- ◎ 「分かる授業」のための実物投影机やデジタルカメラ等を活用したICT教育の推進
- ◎ 学習習慣や基礎学力の定着、学習意欲の向上のための「学びサポート教室」の実施

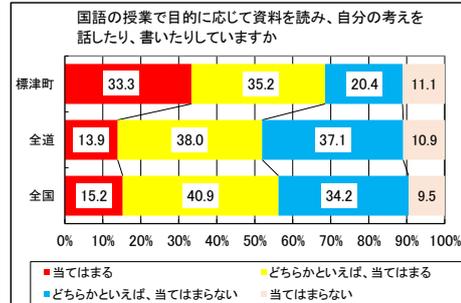
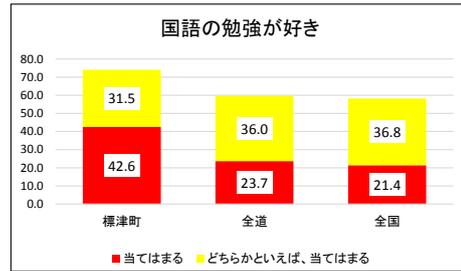
■ 標津町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:54名)

【教科全体の状況】

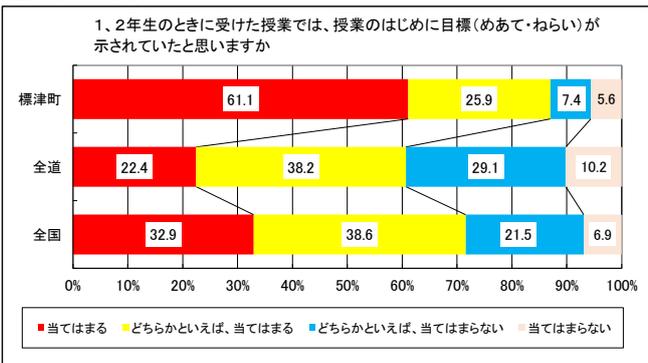
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



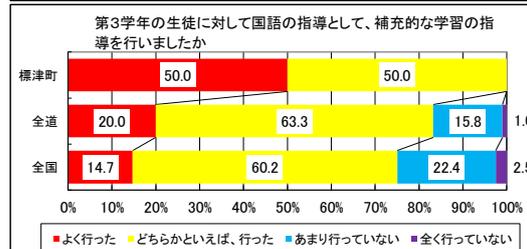
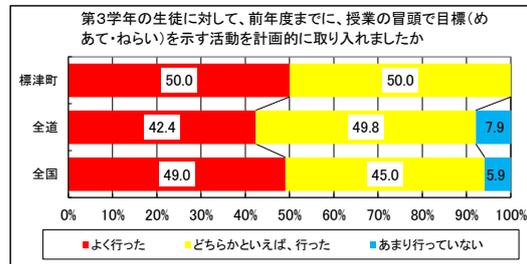
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aの「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、数学A、Bの「関数」、数学Bの「資料の活用」の領域が全国以上である。	○ 各学校で授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れることなどにより、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする活動が充実しつつある。また、国語の指導として、補充的な学習の指導を行うことなどにより、基礎的な学習内容が定着しつつある。
生徒質問紙	○ 「国語の勉強が好き」、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答する生徒が全国、全道と比べて多い。 ○ 「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた」と回答する生徒が全国、全道と比べて多い。	
学校質問紙	○ 「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた」と回答する学校が全国、全道と比べて多い。 ○ 「国語の指導として、補充的な学習の指導を行った」と回答する学校が全国、全道と比べて多い。	

【標津町の学力向上策】

- ◎ 子どもの主体性を培うための学習スタイルに則った授業づくりの推進
- ◎ 習熟度別少人数指導やチームティーチング指導の充実
- ◎ 「分かる授業」のための実物投影機やデジタルカメラ等を活用したICT教育の推進
- ◎ 学習習慣や基礎学力の定着、学習意欲の向上のための「学びサポート教室」の実施